

「1950 年代教育史」研究部会（第 34 回）

日時：2019 年 3 月 26 日（火） 13:00～15:30

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）須田将司研究員報告：国立大学附属教育研究所の機関誌分析 宮崎大学と静岡大学の事例

◆国立大学附属教育研究所

先行研究では個別の学校史レベルでの記載のみだったが、18 例の『所報』や機関誌の発行を確認できた。その中から特徴的な 2 例を検討（特集記事〈表作成〉・執筆者 資料①②参照）

・宮崎大学教育研究所機関誌『教育の研究』（1949～57 年）

1957 年に宮崎県教育研究所が設立。県内の教育課題だけでなく、へき地教育・入試・道德教育等、時事問題も取り上げている

戦後、自治体立研究所がない中、県内教職員の研修期間として大きな存在感

・静岡大学教育研究所機関誌『文化と教育』（1950～63 年）

96 ページで毎月刊行。広告もあり本格的。別に県の教育研究所も継続的に刊行物発行
文化・文芸活動に関する内容も特集されている（特に後半）

静岡大学教育学部の在り方に関するものが多い

◆今後の予定

静岡で現地調査し テーマに沿って情報の収取と分析を試みる

（2）大島宏研究員報告：山梨県高等学校分校 2 学科課程の設置状況（1950～1958 年）

◆前回報告の『山梨県高等学校要覧』に記載の「学校別設置学科並びに募集定員の変遷」から 課程別に表を作成（普通・農業・工業・商業・家庭）

その変化を全日制・定時制本校・定時制分校ごとにみる（1948 年～1958 年）

全日制 → 商業課程以外には大きな変化はない

定時制本校 → 商業課程の設置校に変化・家庭課程の減少

定時制分校 → 普通課程、農村家庭課程、家庭課程の減少

〈まとめ〉

- ・全日制・定時制本校では商業課程に変化がみられるが、定時制分校には設置が少ない
- ・全日制・定時制本校では普通課程に変化がないが、定時制分校では減少
- ・50 年代後半、定時制本校・分校ともに家庭課程減少傾向→女子向け課程の縮小？
- ・分校の農業関係課程は農業課程と農村家庭課程のみ。施設設備の関係で専門的な教育ができない？

・次回研究会は、2019 年 4 月 19 日（金）13:00～。鳥居研究員、西山研究員発表

・次回以降のスケジュール 2019 年 5 月 24 日（金）13:00～